

新しい事業説明看板を導入します

～ 工事の目的や完成時期を「見える化」し、わかりやすい現場へ転換～

記者発表資料

工事現場に設置している事業説明看板を見直し、道路利用者や地域の皆さんに**工事の目的や完成時期が一目でわかる**ようにする取り組みを開始しますのでお知らせします。

< 新しい事業説明看板の設置箇所 >

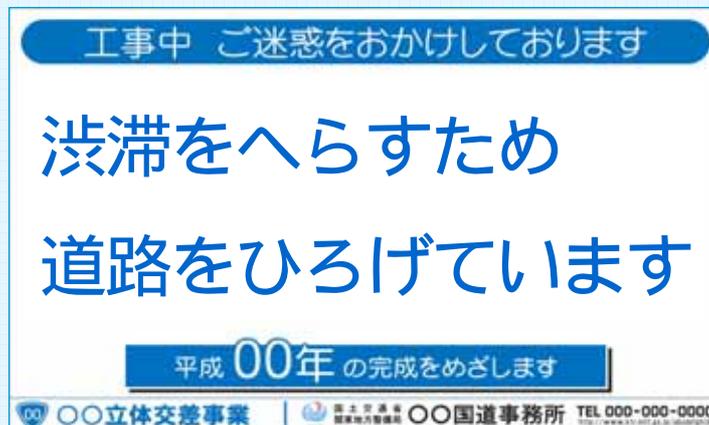
県内5箇所に設置します（別添1参照）

< 新しい事業説明看板の概要・導入の目的 >

設置目的・概要（別添2参照）

「何のための事業か?」「いつまで事業を行うのか?」といった**道路利用者の声に伝えるため**、従来の工事説明看板では分かりづらかった**事業の目的や完成時期を明示**します。これにより、事業の透明性を高めます。

新しい事業説明看板の標準的なデザイン



平成19年8月14日

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所

発表記者クラブ

栃木県政記者クラブ

お問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所

副所長：山田 ^{やまだ}明彦 ^{あきひこ}（内線204） 工務課長：戸澤 ^{とざわ}辰美 ^{たつみ}（内線411）

住所：栃木県宇都宮市平松町504

電話：028-638-2181（代表）

道路行政は“選択と集中”へ

～レッドゾーンの考え方を導入し事業の「重点化・効率化」を推進～

「交通戦争」の頃のような危険な状態にある道路（レッドゾーン）が残っています。

昭和45年；交通事故死者数は1万7千人。「交通戦争」という言葉が使われる。

当時、車が1億km走る間に平均300件の事故が発生。平成に入り、平均100件前半まで低下も、諸外国よりもまだまだ危険な状況。

「交通戦争」時代と同等の平均300件を超える区間（レッドゾーン）が全国の国道と都道府県道（18万km、93万区間）に未だ5%存在。

レッドゾーン・イエローゾーン以外の区間では、原則として事故対策事業を実施しません。

わずか5%の区間のレッドゾーン内に、死傷事故の約25%が集中。

事故対策を行ううえでは、この区間に対策を重点化することが重要。

欧米での平均を大きく上回る100件超の区間（イエローゾーン）も含めた19%の区間に死傷事故の約67%が集中。

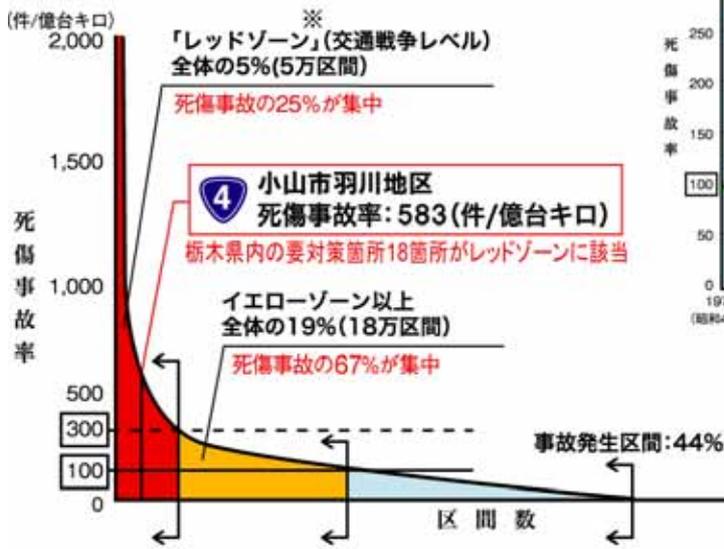
レッドゾーンに集中して安全対策を実施します。

栃木県の安全見える化プラン要対策箇所に選定された箇所は21箇所。

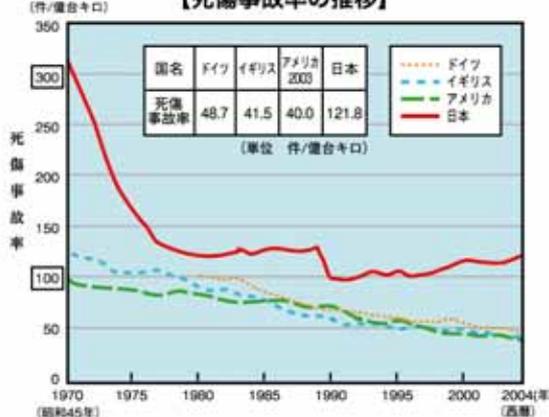
このうち、瑞穂野団地入口交差点をはじめ18箇所、約9割がレッドゾーンに該当。

宇都宮国道事務所における交通安全対策費の16億8,600万円は、レッドゾーン、イエローゾーンにすべて充当。

●全国(国道・都道府県道)の死傷事故率



【死傷事故率の推移】



※車が1億km走る間に300件を超える事故が発生している区間 (昭和45年頃のいわゆる「交通戦争」と言われていた頃の状況)